

NEWS ニュース

TEL : + 81-724-90-2603
 Fax : + 81-724-90-2803
 E-Mail : jlptinfo@jpf.go.jp
 ホームページ : <http://www.ijnet.or.jp/jpf/jlpt/contents/home.html>

日本国内の実施について：
 財団法人日本国際教育協会
 事業部日本語・統一試験課
 〒153-8503 東京都目黒区駒場
 4-5-29

TEL : + 81-3-5454-5215
 Fax : + 81-3-5454-5235
 ホームページ : <http://www.aiej.or.jp/index2.html>

2001年度日本語能力試験の結果について

昨年12月2日(日)に国際交流基金と(財)日本国際教育協会の共催で実施された、2001年度日本語能力試験の結果がまとまりました。試験は日本国外38の国・地域の89都市、日本国内6地域で実施され、日本国外で178,499人(前年度比約11%増)、日本国内で49,094人(同約20%増)が受験しました。

各級の受験者数、認定者数、平均点は、別表のとおりです。

級別	受験者数(人) A	認定者数(人) B	認定率(%) B/A	平均点 (400点満点)	
国 外	1級	40,845	17,003	41.6%	265.6
	2級	49,546	21,110	42.6%	227.4
	3級	53,089	26,173	49.3%	236.0
	4級	35,019	17,974	51.3%	240.5
	小計	178,499	82,260	46.1%	-
国 内	1級	32,410	14,218	43.9%	261.9
	2級	8,965	4,326	48.3%	236.8
	3級	5,311	3,852	72.5%	273.0
	4級	2,408	1,957	81.3%	289.5
	小計	49,094	24,353	49.6%	-
合 計	227,593	106,613	46.8%	-	

なお、2002年度の試験は12月1日(日)に実施されることになりました。詳細は、7月頃に下記までお問い合わせください。

日本国外の実施について：

国際交流基金関西国際センター試験課
 〒598-0093 大阪府泉南郡田尻町
 りんくうポート北3-14

編集部から

今回から連載の始まった「海外日本語教育レポート」では、第1回として、中国の北京日本学術センターに新設された在職修士課程を紹介しました。日本語国際センターでも、昨年からは日本語教育の修士号を取得できるコースが始まったところです。当センターのコースについては、次号でご紹介する予定です。

この「通信」が発行される頃に、サッカーの世界カップが開幕します。「授業のヒント」のあいうえお作文にあるように、ここ、さいたま市にある「さいたまスタジアム2002」でも、日本-ベルギー戦など4試合が行われます。日本チームの世界カップ史上初勝利なるか、

ソウル日本文化センター・日本語センター開設

去る3月、日韓両国政府の合意により、国際交流基金の19番目の海外事務所としてソウル日本文化センター・日本語センター(所長・久保和朗)が正式にオープンしました。

ソウル日本文化センター・日本語センターは、図書館、多目的ホール、日本語セミナー室などの施設を備え、当基金の各種事業プログラムに加えて、日本語研修、文化情報サービス、セミナー、シンポジウム、展覧会などさまざまな企画事業を実施しています。

韓国は、世界の教育機関で学ぶ日本語学習者の半数近くを有する「日本語教育大国」ですが、昨年からは中学校でも日本語の授業が開始されるなど新しい動きが出てきており、教師研修をはじめとする韓国側の取り組みへの支援・協力はセンターにとって特に重要な事業となっています。

今年は「ワールドカップ日韓共同開催」の年。新センターは、日本文化の韓国へ

期待が高まっています。

さて、今回で「通信」の担当を替わることになりました。これまで読んでくださった読者の皆様、そして厳しいスケジュールの中で執筆してくださった皆様、どうもありがとうございました。未熟者でスケジュールどおりに刊行するだけでも精一杯でしたが、たくさんの方々のおかげで「通信」を発行することができました。今後も新しい担当者が「通信」をお届けしますので、どうぞよろしくお願ひします。(k)

編集部では、『日本語教育通信』に対するご意見や皆さんの学校の状況などを書いたお手紙をお待ちしています。

の紹介にとどまらず、韓国文化の日本への紹介や、多国間の共同事業を通じて、異なる文化を尊重し合い、さらには新しい文化が創出されることを願って活発な事業を展開していく予定です。

センターの詳細については、ホームページ(韓国語・日本語・英語 <http://www.jpf.or.kr>)をご覧ください。

海外のシラバス・ガイドライン翻訳

初中等教育における日本語教育事情

いま初中等教育における日本語教育が世界的に拡大しています。とりわけ、全国規模の初中等教育では、その効果的な実施のため、統一性や一貫性のあるシラバスやガイドラインの整備が重要です。すでに本格化している国々でも、さらに充実を図るため、常にシラバスやガイドラインの最新化が行われています。これから取り組もうとする国々にとっては、それらが重要な参考資料となるのです。また、海外の日本語教育事情を知るうえで有益な情報となっています。

日本語国際センターでは、これまで原本を図書館で紹介してきましたが、翻訳がなかったため、原語を解する方々のみの利用に限られていました。ホームページ上の「国別情報」でも具体的に紹介できなかったのです。その不便さを解消するために、また関係者の相互交流を図るために、このたび7カ国(韓国、中国、インドネシア、ニュージーランド、米国、英国、ドイツ)から9点のシラバス・ガイドラインを選び翻訳刊行することになりました。同時にホームページ上にも掲載する予定です。広くご利用いただけることと思います。なお、米国分は、翻訳権の都合で、同ページ上での公開のみとなります。

<http://www.jpf.go.jp/j/urawa>

『日本語教育通信』第43号

2002年5月発行

編集・発行 国際交流基金

日本語国際センター 情報交流課
 〒336-0002 埼玉県さいたま市北浦和5-6-36

The Japan Foundation
 Japanese-Language Institute, Urawa
 (6-36 Kita-Urawa 5 Chome, Saitama-shi,
 Saitama 336-0002, Japan)
 TEL. 048-834-1184 FAX. 048-830-1588

E-Mail jfnctt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会
 Japan Association for Cultural Exchange
 (ACE Japan)

(表紙イラスト: 村井宗二) 古紙100%再生紙使用